

茨城大学理学部公開シンポジウムのご案内

茨城大学理学部では、地域の研究機関や医療機関等との連携の一貫として公開シンポジウムを開催いたします。事前登録不要、無料ですので、ぜひご参加下さい。

理学部公開シンポジウム(第10回 Quantum Medicine 研究会、茨城大学重点研究講演会)

「組織や個体の環境から発がん・がん放射線治療を考える」

日時 2017年(平成29年)2月12日(日)9:30~15:45

場所 茨城大学理学部 K棟インタビュースタジオ(水戸市文京2-1-1)

午前の部(9:30から) 開会の挨拶 世話人代表 田内 広 (茨城大学理学部)

放射線発がんの被ばく時年齢依存性 立花 章 (茨城大学理学部)

X線マイクロビーム照射後の細胞運命とミトコンドリア活性変化
横谷明德 (量子線科学技術研究開発機構)

ウィルス感染とDNA損傷の相互作用 飯島健太 (国立国際医療センター)

組織が示す線量率効果から発がんリスクを評価するアプローチ
大塚健介 (電力中央研究所)

宇宙環境を模擬した疑似微小重力と重粒子線の複合影響解析
高橋昭久 (群馬大学 重粒子線医学研究センター)

午後の部(12:50から)

組織微小環境反応から発がん・がん放射線治療を考える
鈴木啓司 (長崎大学原爆後障害医療研究所)

がん患者の放射線治療による予後とQOL、晩期の放射線誘発2次癌について
染谷正則 (札幌医科大学医学部)

VRによる被ばく線量測定と低減に向けた取り組み
孫 略 (筑波大学 陽子線医学利用研究センター)

放射線治療の動向と茨城県内の現状
玉木義雄 (茨城県立中央病院・がんセンター)

筑波大学のBNCT用加速器ベース小型中性子源の開発状況
熊田博明 (筑波大学 陽子線医学利用研究センター)

東海村の加速器型中性子発生装置を用いたBNCTの生物実験について
大西 健 (茨城県立医療大学)

総合討論「環境と発がん要因の相互作用を考える」

閉会の挨拶 永井秀雄 (茨城県立中央病院)

コメンテータ: 坪井康次 (筑波大学)、大西 健 (茨城県立医療大学)

問い合わせ先: 茨城大学理学部 田内 広

029-228-8333(代)または hiroshi.tauchi.sci@vc.ibaraki.ac.jp